

21-14

第53

育體童兒



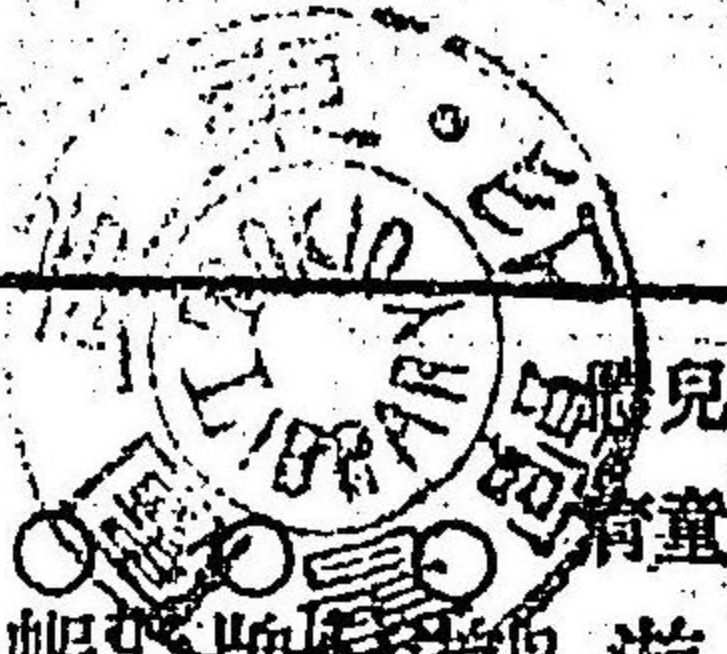
遊藝法



© S. A. H. A. J. A. P. A. N.

朝陽堂藏版

No 11610



兒童

遊戯法目次

○背打鬼遊 <small>せうちがひあそび</small>	○鳥刺遊 <small>とりさしあそび</small>	○樹鬼遊 <small>まきすお</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○圍鬼遊 <small>おりに</small>	○隱遊 <small>かくれ</small>	○覆目遊 <small>ゆめめ</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○蜈蚣遊 <small>むかひ</small>	○牌章雛形 <small>はいしやうひながた</small>	○遊戯心得 <small>あそびこころえ</small>	○追鬼遊 <small>おそひ</small>
十一丁	十丁	全	九丁	八丁	全	七丁	六丁	五丁	三丁	初丁	十二丁
○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○旗奪競走 <small>はたをばいしりく</small>	○旗取競走 <small>はたとりしりく</small>	○競走 <small>はしり</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○綱引 <small>おとこ</small>	○飛繩 <small>とび</small>	○繩飛 <small>あひ</small>	○棒押 <small>ぼうおし</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○半間引 <small>はんげんひき</small>	○旗拾競走 <small>はたひろいしりく</small>
廿一丁	二十丁	十九丁	十八丁	十七丁	全	十六丁	十五丁	十四丁	全	十三丁	廿二丁
●目次終	○附錄和英語 <small>わがことば</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○戰争遊 <small>せんそうあそび</small>	○蹴鞠 <small>けりま</small>	○環貫 <small>ゆわき</small>	○投球 <small>な</small>	○轉球 <small>まわ</small>	○環投 <small>ゆわ</small>	○同軍歌 <small>おそろしく</small>	○旗戻競走 <small>はたをどしりく</small>	○旗拾競走 <small>はたひろいしりく</small>
	數種	三十丁	全	廿八丁	廿七丁	廿六丁	全	廿五丁	廿四丁	廿三丁	廿二丁



◎ 兒童遊戯法

東條種家編

○ 遊戯心得

- 一、遊戯の仲間は凡て親睦を旨とし勝敗等に依て争ふ事ある可からず
- 二、勝敗の決審あらざる時の指揮者の決に従ふべし
- 三、指揮者の年長にして熟練の者を撰ぶべし
- 四、順番を要する遊戯の互にジャンケンに依て取極めるを宜しとす而して初めに負けたる者を最下とす
- 五、組を分つは同じくジャンケンに従ひ最初に負けたる者と次に負けたる者と相敵し第三に負けたる者は第一に負けたる者の味方にして第四に負けたる者の其敵とあるが如くすべし

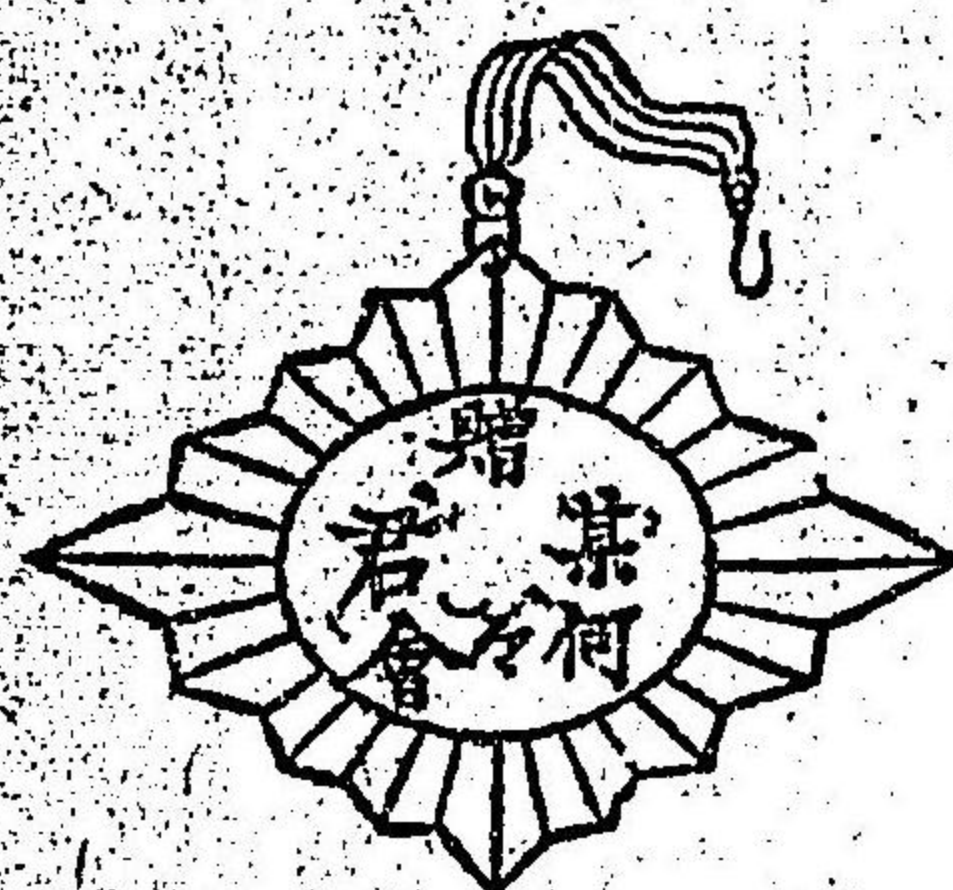
- 六、敵味方混入す可からず
- 七、投球の如き戯の指揮者最初に之を投ぐべし
- 八、倒るの恐れある遊戯の地の未だ乾かざるに爲す可からず
- 九、一の遊戯の餘り久しく續く可からず
- 十、遊戯の法に背き又は争論等をあし又の仲間に害を加ふる等の者の其仲間を除名すべし
- 十一、鬼四五度續く時は他の者と之を代ゆべし是れ一人にして餘り久しく續くは身の害とあり又仲間に嫌るゝ恐ある故あり
- 十二、等級を分ちて最初に褒賞を贈するを宜しとす其熟練にして最も妙を得たる者の褒賞として牌章を贈るべし
- 十三、牌章の遊戯の時のみ用る之を左の袵に掛くべし
- 十四、牌章を有する者の如何ある遊戯又ハ何處の仲間も之を優待すべし

横 寸二分
縦 寸六分

表



裏



○牌章雛形

真鍮の如き金属を用ゆるを宜しとす但厚紙を用ゆるもよし

第一圖



○蜈蚣遊

十人計の中一人を鬼となし又一人を親となし親の次へは順次に帯を握りて第一圖の如く一直線に並べし親の他は皆子と稱ふるなり而して鬼は親と互に両手を把り左の如く唱ふべし

「鬼 親を渡すか子を渡せ

「親 親も行くまじ子もやらじ

「鬼 たとひ堅固に拒ぐとも

「親 たとひ血氣にはやるとも

「鬼 ちどか奪はで止むべきか

「親 ちどか膝下を離すべき

右の如く唱へて鬼は後邊にまはり子を取らんと

し親之子を渡さじと鬼を防ぎ子と共に軍歌を唱へながら逃ぐべし鬼一人の子を取りたれば其取られたる子代りて鬼とあり前の鬼は直に子とあるべし親と其子を渡さじとて餘り手を以て鬼を捕へる等のことを爲す可からむ又若し子に倒るゝものあらば鬼は直に親の前に來りて子を取る事を心掛くべからず然れども過て子の中握りたる手を離すとき其子は又代りて鬼となるべし

軍歌

守れや守れ皆守れ
異國の奴隸とあることを
恐るゝものは父母の

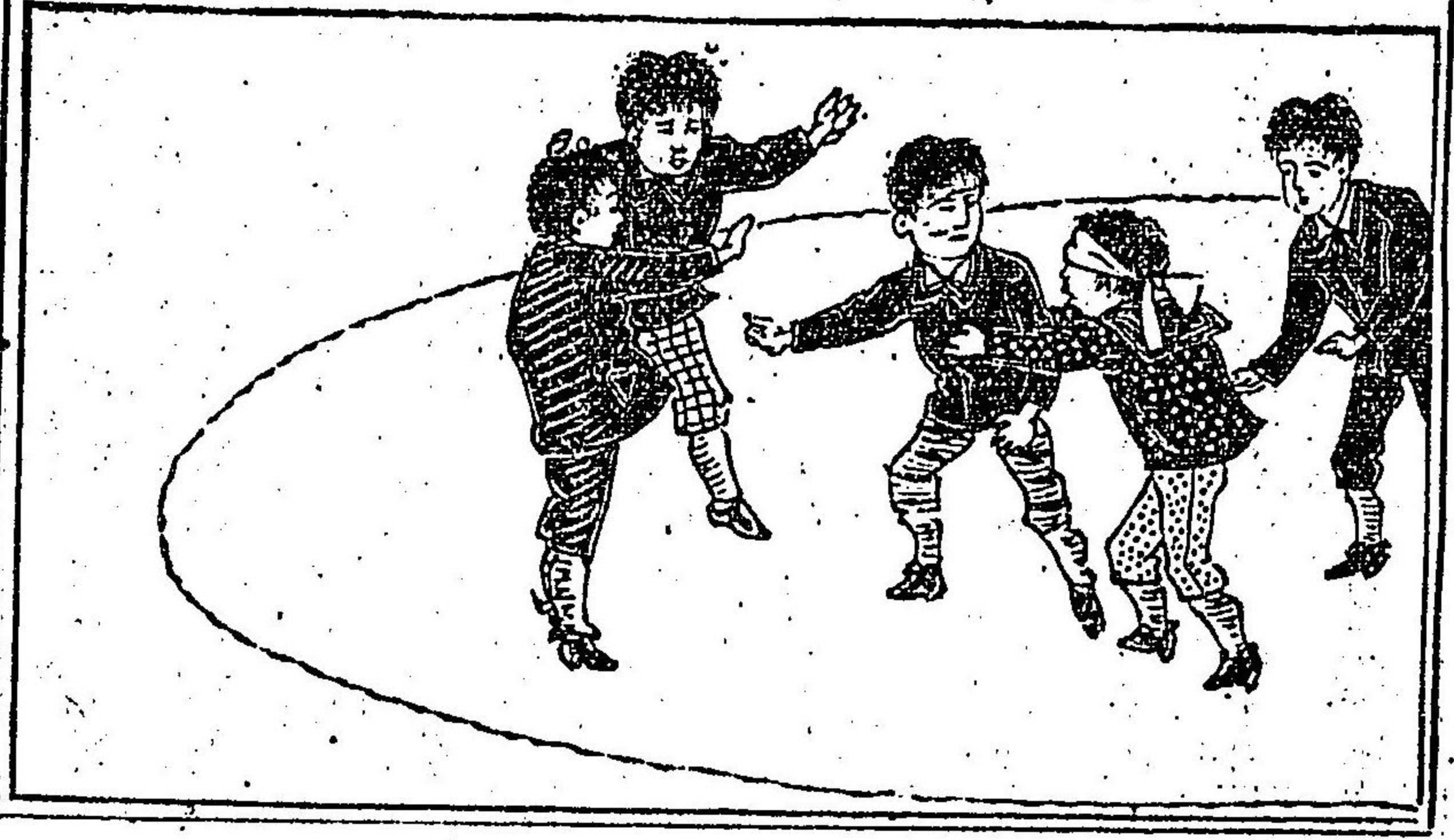


墳墓の國をば能く守れ
たとひ命を棄るとも
御國の爲あり國の爲

○覆目遊

十人計の中一人を鬼となし手拭を以て其目を隠し第二圖の如く地上に圓く又は四角に線を引き其中央に鬼を立たしめ殘の者之鬼の周圍にあるべし鬼は之を逐ひ一人を捕へて其名を當つるとさし其當てられたる者を代て鬼とあるなり若し此畫線より出づる者あれば其者又代りて鬼とあるべし

○隱遊

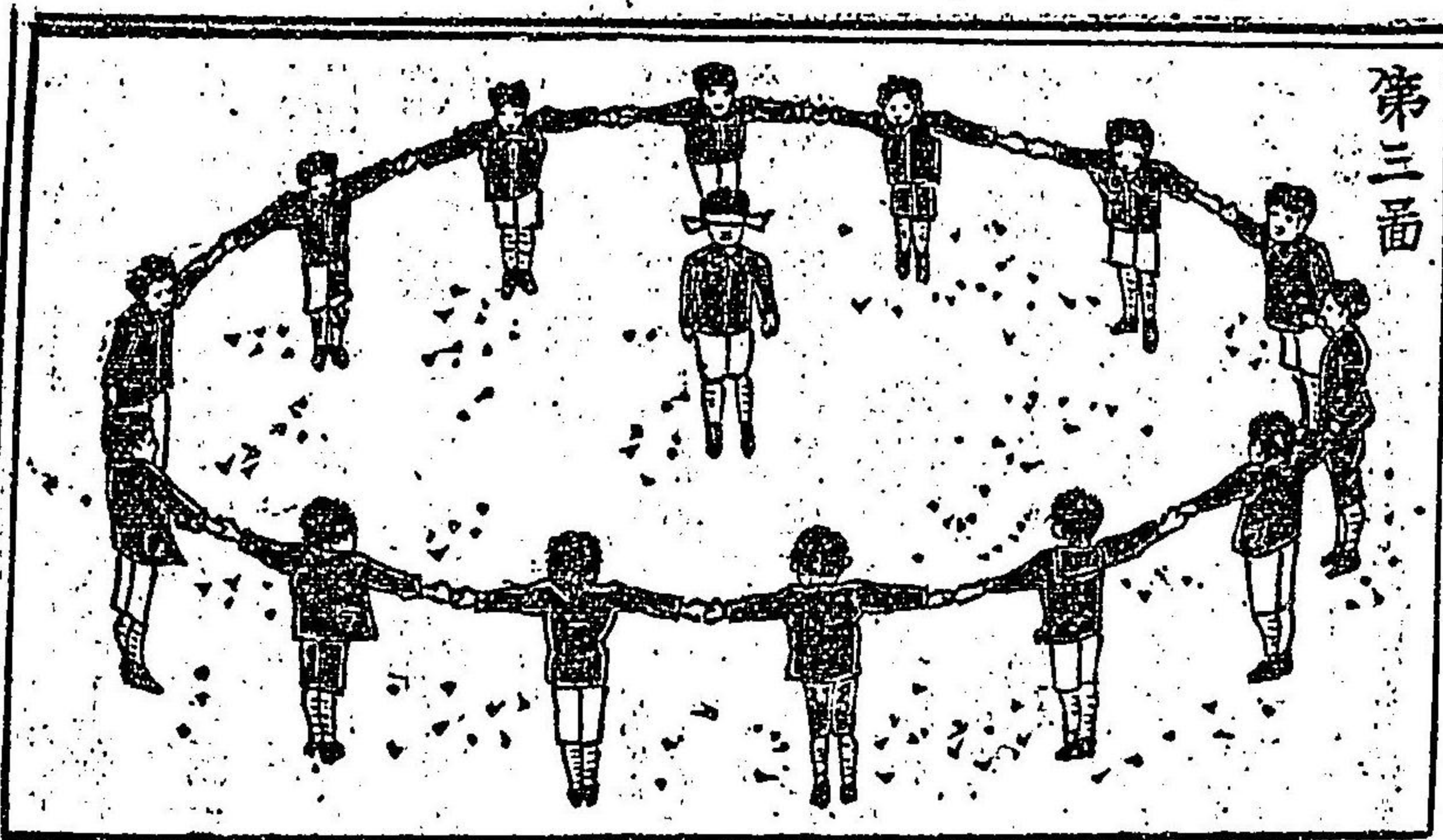


先づ初めに其遊ぶべき場所を限りて一屋敷或是一家内とし數人の中一人を鬼となし目を覆ふて或る處に立たしめ殘の者各別れて其好む處に隠れ居るべし斯くて鬼「モーヨロシイカ」の聲を掛けて答のなきときを皆既に隠れたりを知るべし而して尙其場所を離るる合圖として「一二三」と呼び隠れたる人五六人なれば三人程を尋ね當つべし最初に尋ね當りたる人を代りて鬼とあるなり此時「鬼代り」と呼びて隠れたる者を皆集むべし是れ餘り隠れ居ること長ければ其儘眠りて遂に見出す事能とざる等の事あればなり

○圍鬼遊

十四五人の中一人を鬼となし手拭めて目を覆ひ中央に立たしめ殘の者は互に手を把り第三圖の如く鬼の周圍に圓く相連なり軍歌を唱へて右或は左へ廻るべし軍歌終りたらば鬼は何れの方向にても進みて一人を捕へ之に對ひて談話を仕掛け答ふる音聲を聞て其名を呼び當べし當てられたる者は代りて鬼とあるべし

第三圖



若し其名を當つること能とざるるときは再び鬼となるべし

軍歌

來れやわらべ傍らに
のどけき天を吹く風も
花に戯れ啼く鳥も
汝が清きこゝろには
如何なる事を告ぐるやを
我耳近くさゝやけよ

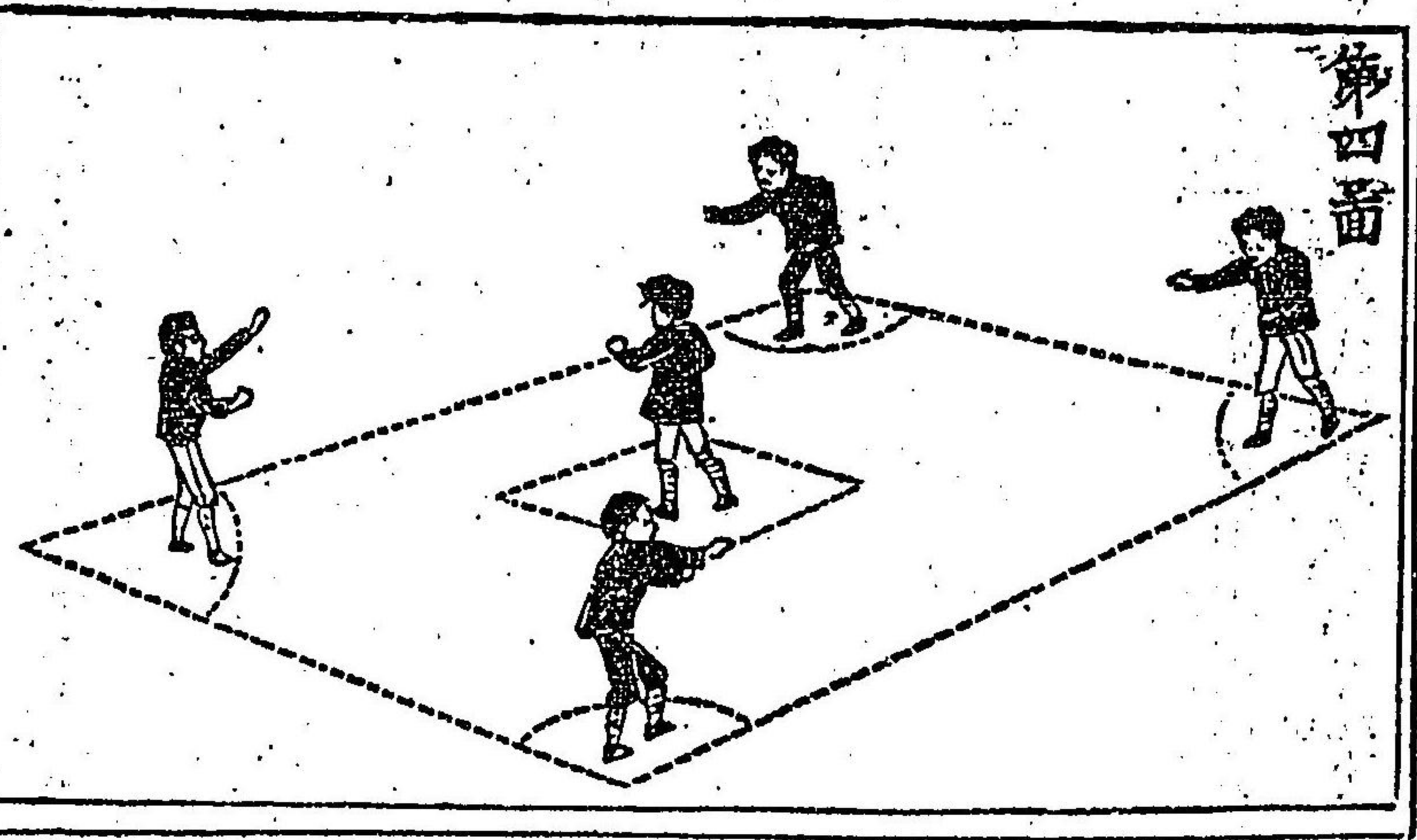
○樹鬼遊

此遊は五人にて爲すを宜しとす先づ地上に四方四五間の線を引き又其四隅及び中央に溜の線を

ひき鬼は中央の溜に屯し残に四人と四隅の溜にありて互に「代口代口」と云ひ其場所を代ゆべし
 此時鬼は其明きたる隅を取り取られたるものは代りて鬼となるべし第四圖の如し

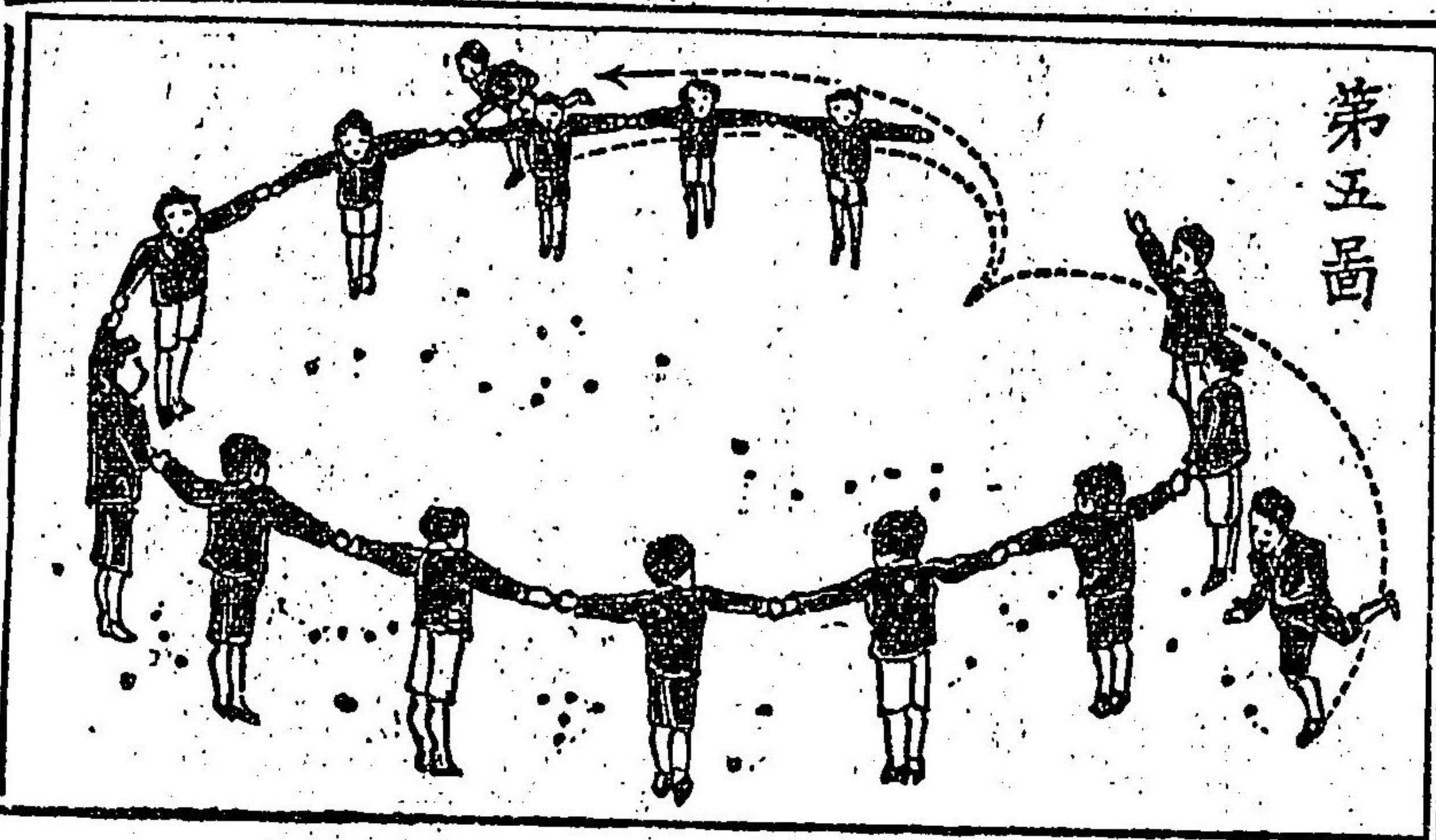
○鳥刺遊

数人の中一人を主人に一人を鳥刺に撰ひ主人は豫め紙の小片に種々の鳥の名を記して残りたる人に與へ其與へられたる人は則ち其記したる名の鳥とあり所々に散在するあり借主人と鳥刺に命じ何鳥を刺し來れと云へば鳥刺之命に應じてこれと思ふ人を捕へて主人の前に至り其人若し命じたる鳥名の紙片を持ち居らば主人は鳥刺



第四圖

第五圖



の巧ざるを賞し尙命じて他の鳥を刺さしむべし若し其命じたる鳥名と紙片の鳥名と異なる時は其人は直に鳥とあり其過ちて刺されたる鳥の代りて鳥刺となるべし而して紙片は鳥刺の代る毎に密かに他の者と交換すべし

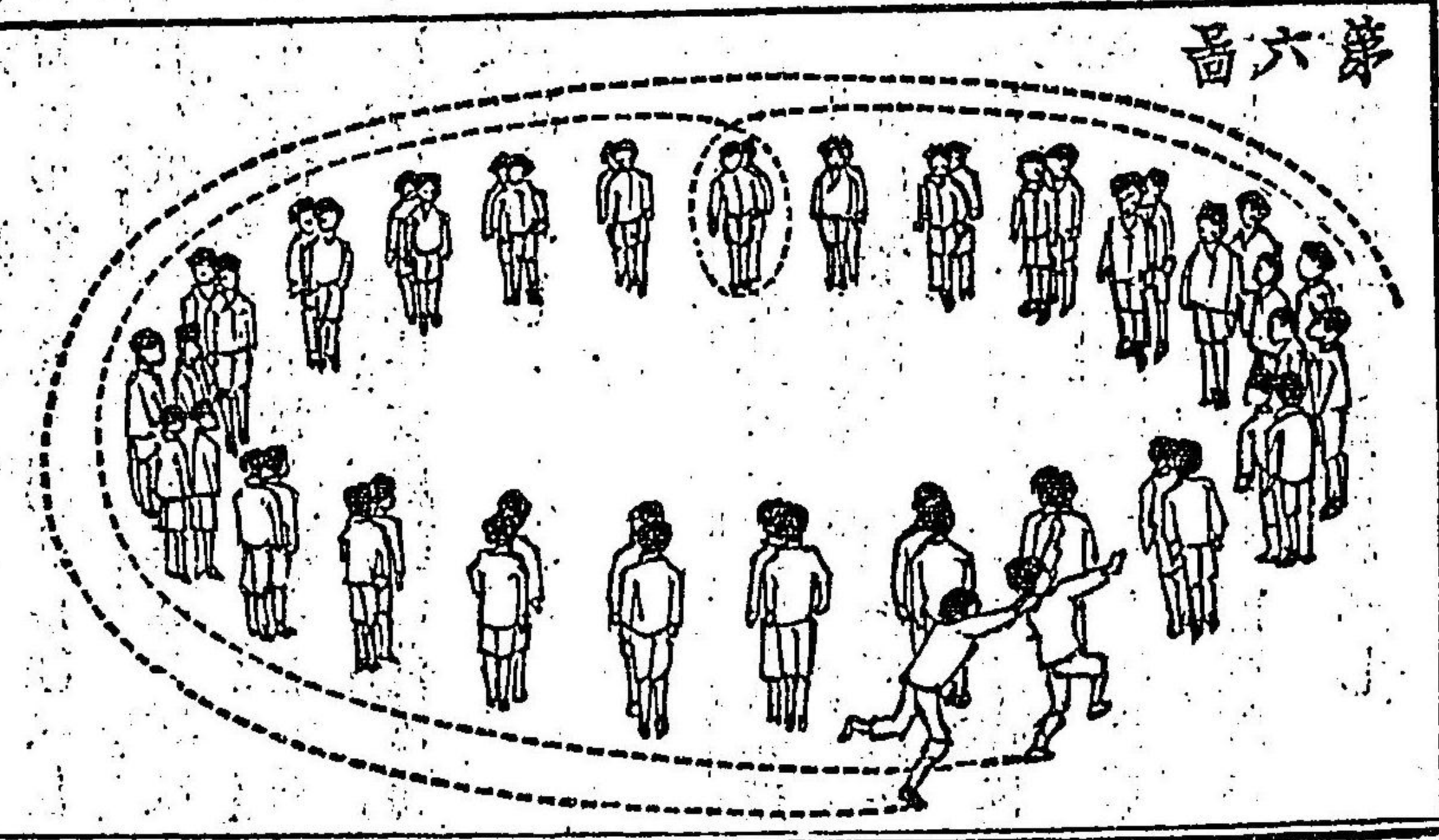
○背打鬼遊

二三十人互に手を把り両手を延べて圓形く相連なり一人は鬼となり鬼は或者の背を打ちて圓き周圍を一方に走るべし此時打たれたる者は直に鬼と反對の方向に走り互に反對に一廻し早きもの先の空所に入るべし遅れて入ること能はざる者は代りて鬼とあるあり第六圖を見るべし

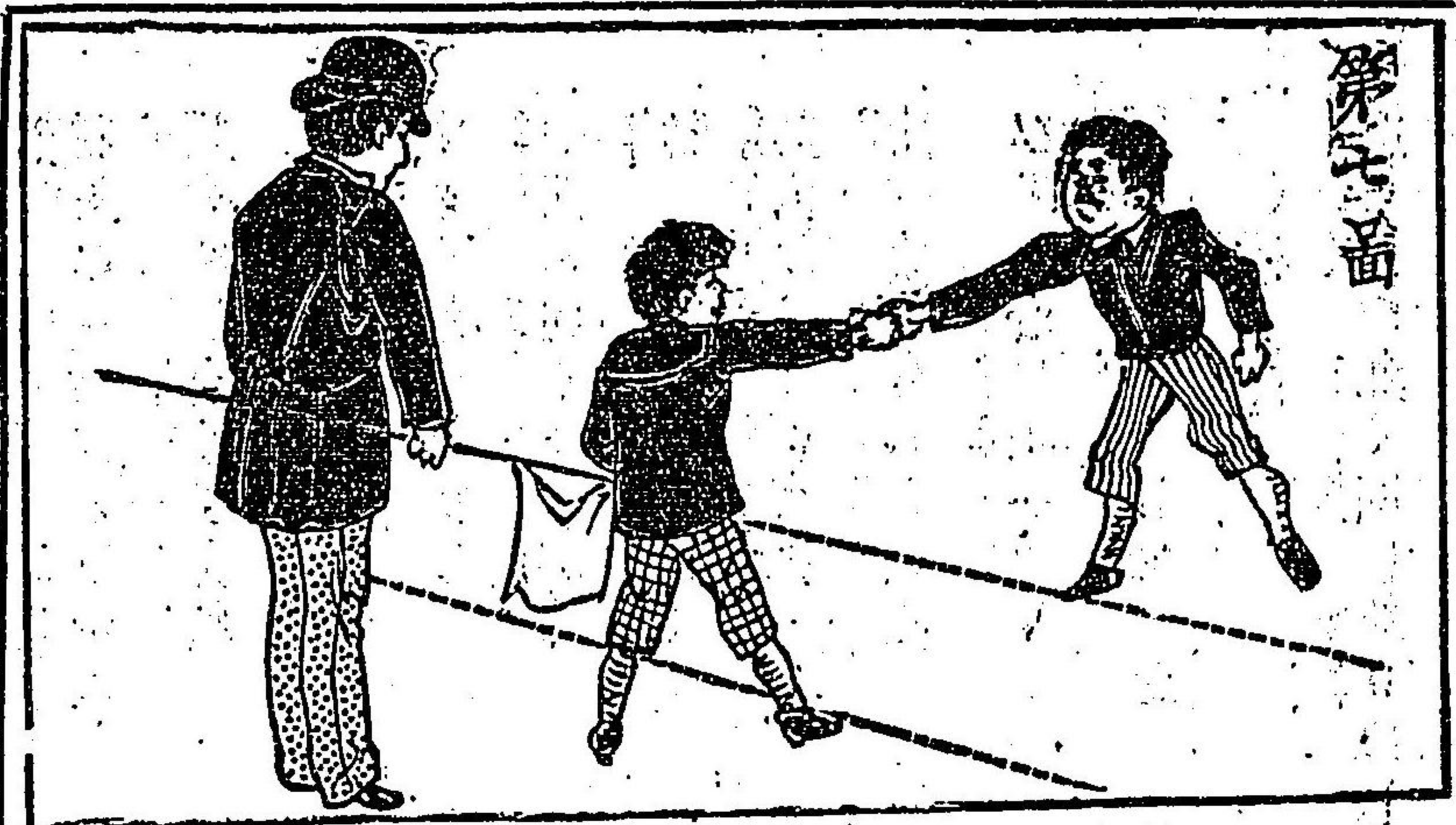
○追鬼遊

二人相重なりて一組となり凡そ五尺間に十組或は十五組に圓く相並び外に二人を取り置き其中一人を鬼となり他の一人を追ひ捕ふるなり第五圖の如し其捕られたる者は直に代りて鬼となり先の鬼を追ふべし斯くして追はるゝもの將に捕へられんとする時ハ列の一組の前に逃げ入るべし(但し他の組の前を通過すべからず)此時鬼を最早其人を捕ふることを得ず此の最後に重なりたる者を捕ふべき者とす故に組の中最後に重なりたる者は常に追へるゝ者に注意し己が組の前に逃げ入るを見れば直に逃げ走るべし

第六番



第七番



○半間引

仲間の中一人を指揮者となし残り二組に分れ三尺間程の二線を地上に引き両組より各一人づつ大抵力の同じき者を出して第七圖の如く右の足を劃線の處に置き左足を少し引て互に手を延ばし之を引くあり指揮者は能く意を注け「一二三」の令を掛くべし力足らずして線より引出されたものは負けにして勝ちたる者の組に編入すべし而して勝ちたる時其組のみ一度づつ軍歌を唱へて凱歌を擧ぐべし

軍歌

思へよ懐へよ懐へ 神より受たる此國を

我身の失せざる其中は
死すとも退く事勿れ

又

すめら尊の統御す

一代の如く神ながら

猛く雄々しく平けく

其大御稜威朝宵に

仕へまつらふ人民を

ひとつ心に集へつゝ

然れこそ世々に我國を

○棒 押

此遊ぶ前の如く同じ組立にして地上に距離六尺位の線を引き第八圖の如く三

人手に決して渡さず
御國の爲あり君のため

我日本を二千代も

治め給へば大御稜威

豊かに安く在りとかや

綾にかしこみ安國と

彌増々に赤心の

我日本に守りける

浦安國とたゞへたり

尺位の棒を腹にめて、互に之を押し其線より
押し出したるものを勝とす勝ちたる組之其度毎
に一度づゝ凱歌を擧ぐる前の如し

○繩 飛

長さ一丈位の繩兩端を二人にて持ち凡そ四尺
位の高さに絶へず旋廻するとき他の一人此中に飛
び入り繩の地に至るときと兩足を一時に擧げ繩
の頭上にあるときと下に居るが如く絶へて飛び
居るべし第九圖の如し若し誤ちて此繩を踏み又
は踏く等の事あれば繩端を持ちたる二人と直に
其繩を緩めて旋廻を止むべし此時飛損じたる者
は繩の片端を持ちて旋廻し次の者代りて飛ぶべ



第十番



し已に熟練したる者は二人一時に飛ぶも宜しとす

○飛繩

此遊も亦一丈程の繩端を地上より凡そ一尺或ハ一尺五寸位の處にて兩人相持ち而して他の者交るゝ適當の勢を附けて之を飛ぶべし稍熟したるときハ片足にて飛ぶも宜しとす而して若し躓く等の事あれば直に繩端を緩むべし第十圖の如し

○綱引

組を二つに分ち一丈餘の太繩の中央に目標を附け地上に三尺間位に二線を引きさて此目標を中

央になし第十一圖の如く左右に引さて兩組皆交互に持ち指揮者と兩組の中央にありて「一二三」の令を掛け直に兩組をして之を引かしむ力優りて目標を劃線より引入れたる組を勝とし直に勝ちたる組の方へ旗を擧げて之を表すべし此時勝ちたる組は旗の上がるを見て直に凱歌を擧ぐべし

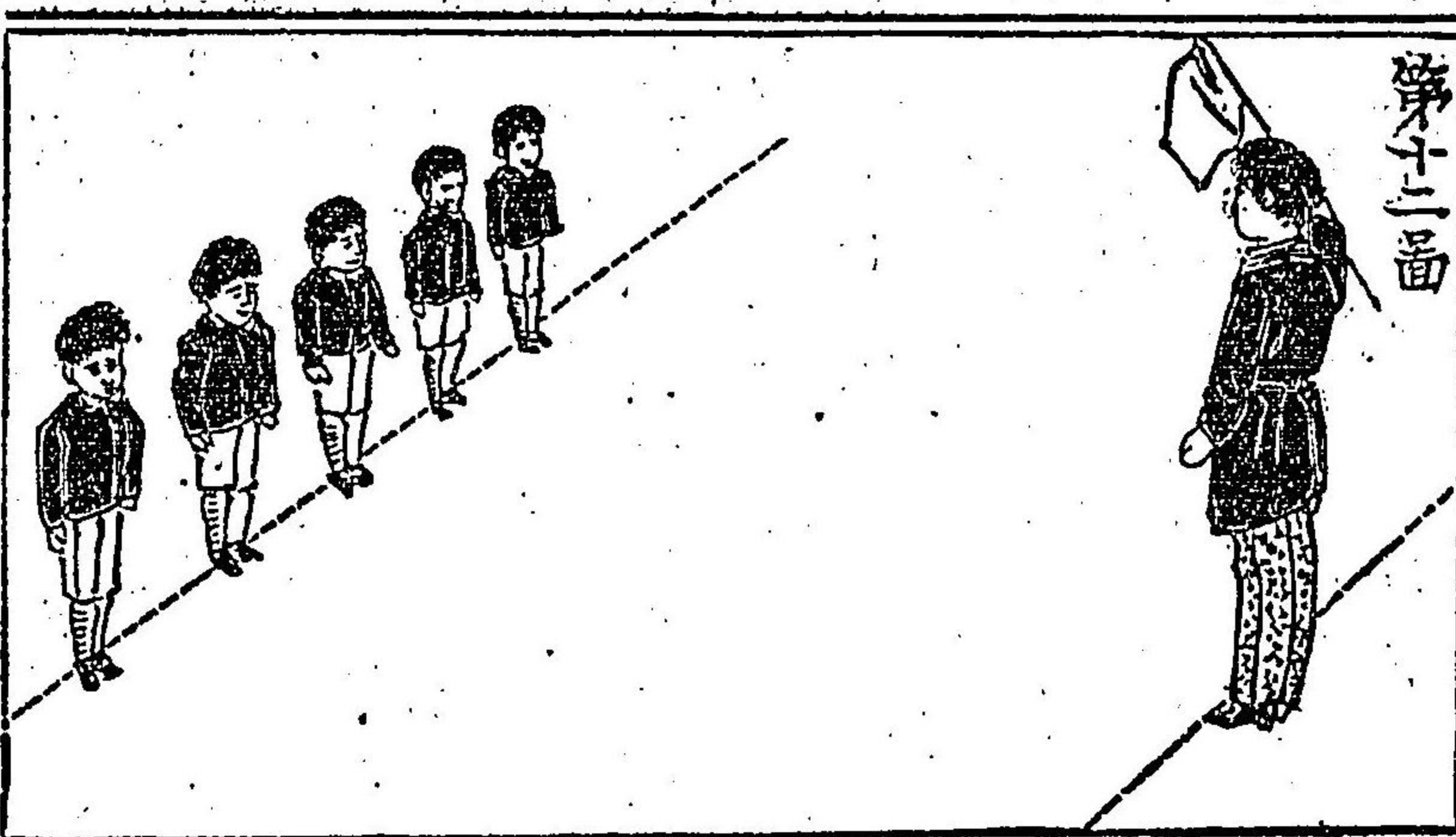
軍歌

西に英吉利北に魯西亞
油斷な爲せぞ國の人
外表に結ぶ條約も
心の底と測かられず

第十一番



第十二番

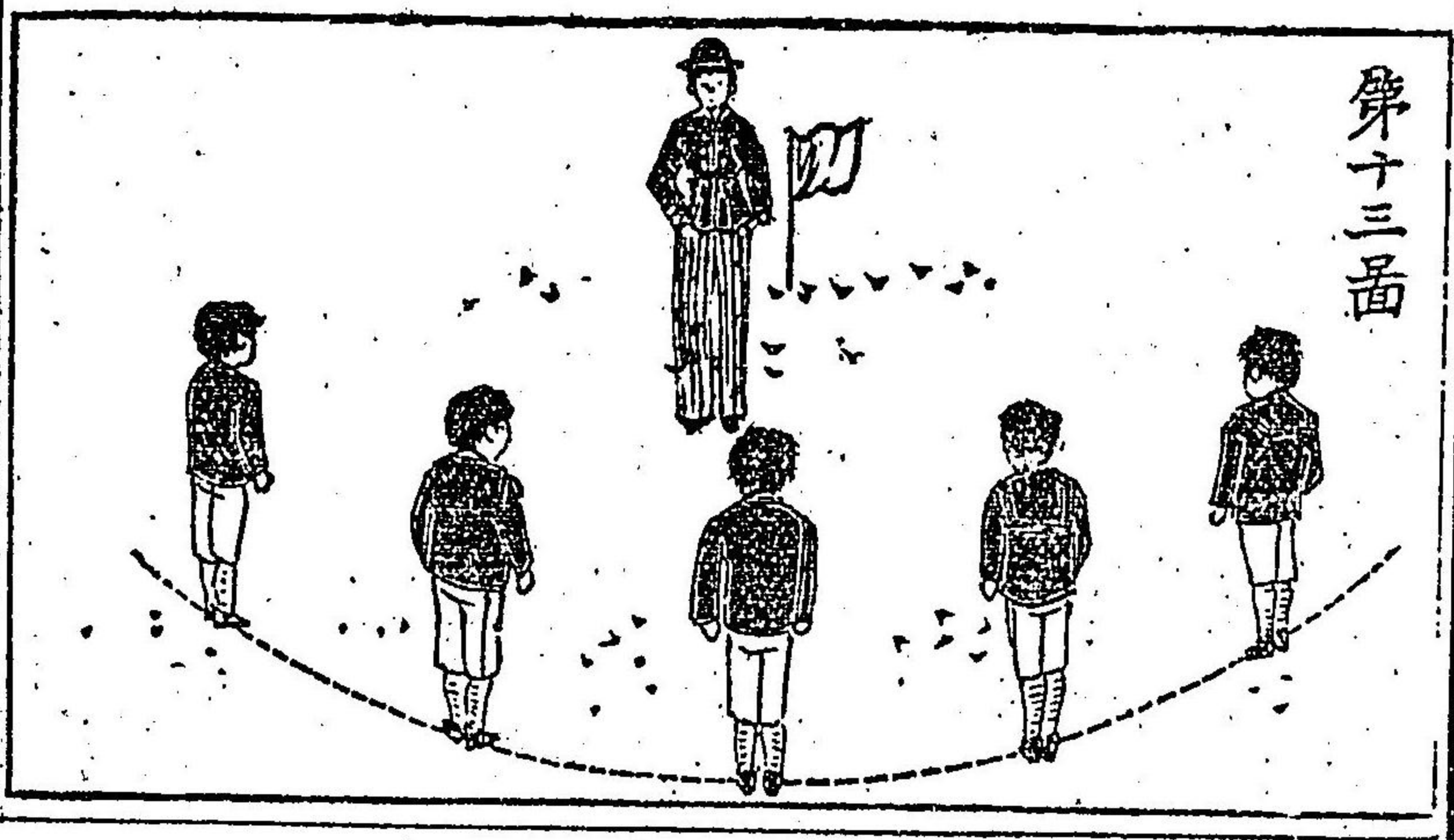


萬國公法ありとても
いざ事あらば腕力の
強弱肉を争ふと
覺悟の前の事なるぞ
嗚呼同胞の兄弟よ
御國に生れし甲斐あらば
盡せや勵め諸共に
まごころ込て盡すべし

○競走

第十二圖の如く地上に一線を引き三尺程間に並
列して競走者となり又二十間程を隔て一線
を引き一人の指揮者此處に立ち「一二三」の號令

第十三番

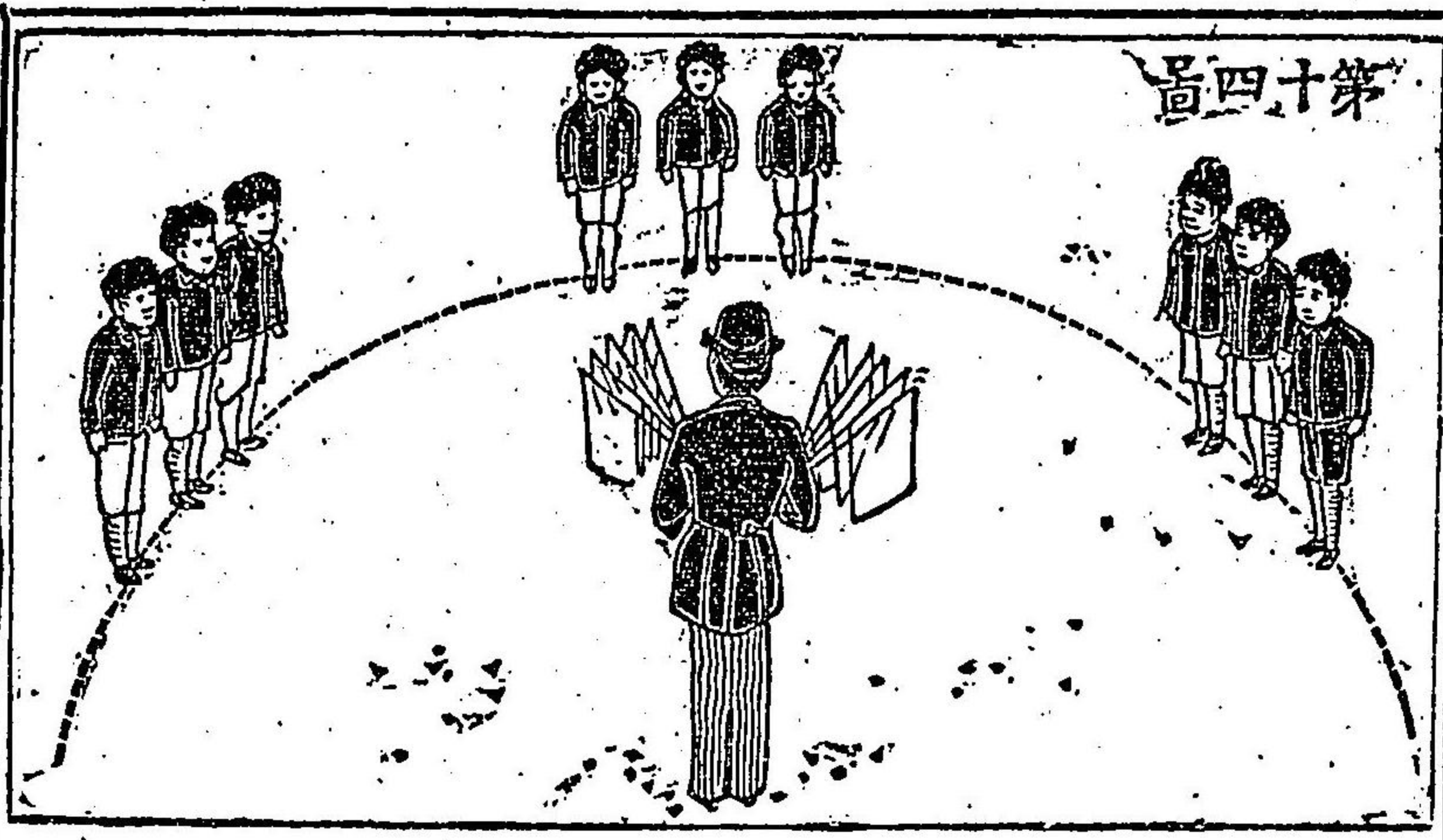


を掛くるや否や競走者之直に前に向ひて疾走
し第一に指揮者の線に達したる者を第一の勝と
し代りて指揮者となるべし
又競走場狭き時と一二度往返するもよろしとす

○旗取競走

此遊も亦前の如く同じ組立にして只競走者の
前に各旗を立て第一に旗を取りたるものを勝
とす

又第十三圖の如く地上に曲線を引き競走者一
人其中央に居り其左右各三尺程を隔て相並
び中央の正前凡二十間を隔て一旗の旗を立て
指揮者其處にありて「一二三」の號令を掛くるや



否や競走者は一時に疾走し速に此旗を取り
 たるものを勝とす而して勝たるものと代りて指
 揮者となるべし

○旗奪競走

又前の如く曲線を引き凡そ二三間宛を隔て、第
 十四圖の如く一組三四人宛並列し指揮者之凡そ
 三十間を隔て、一組三人なれば三旒四人なれば
 四旒の旗を持ち「歌へ」と號令を掛くべし此時毎
 組一時に軍歌を唱へ終らば指揮者は再び「用意」
 「進メ」の號令を發すべし直に毎組より一人づつ、
 旗を目掛けて疾走し指揮者之最も初めに近付き
 たるものへ一旒を興へ受取りたるもの及び受取

る能わざる者も共に元の組に還るべし己に還りたる時と再び二番三番四番を同
 じく右の如くなし而して多くの旗を取りたる組を勝とす
 又指揮者は赤白青黄等の旗を澤山に持ち第一に近づきたる者にて赤旗を興へ次
 へ白旗次之青黄等の旗を興へ此の如く皆終りたる後赤旗を數多く得たる組を勝
 とすることあり但し旗色の優劣は適宜に之を定むべし
 以上すべて第一に勝ちたる者は次回に代りて指揮者となるべし

軍歌

一里半なり一里半
 死地に乗り入る六百騎
 士卒たる身の身を以て
 答をなすも分ならん
 死ぬるの外えあらざらん

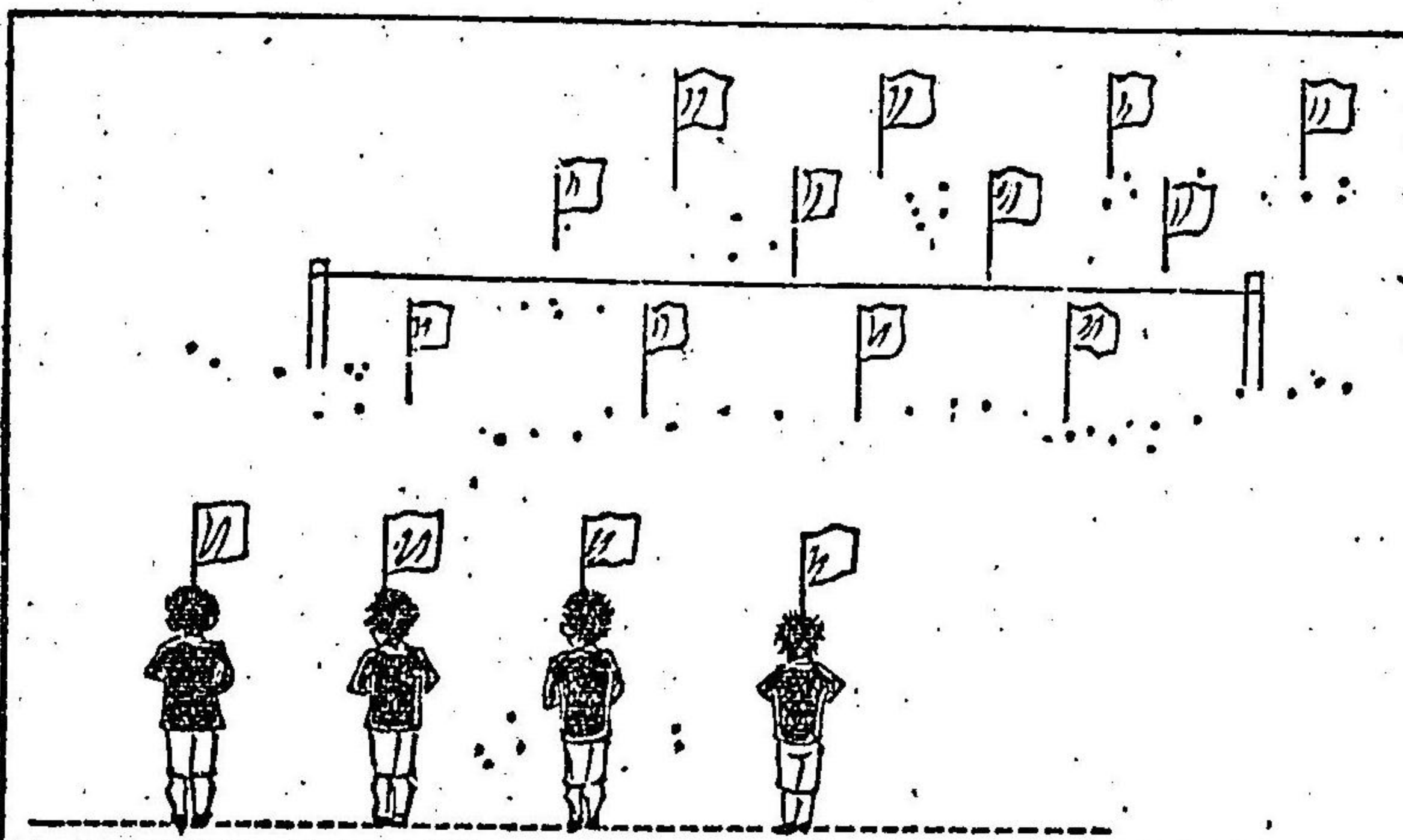
並びて進む一里半
 將は掛けの令くだす
 わけを糾す分ならん
 只命これに従ひて
 死地に乗り入る六百騎

○旗拾競走

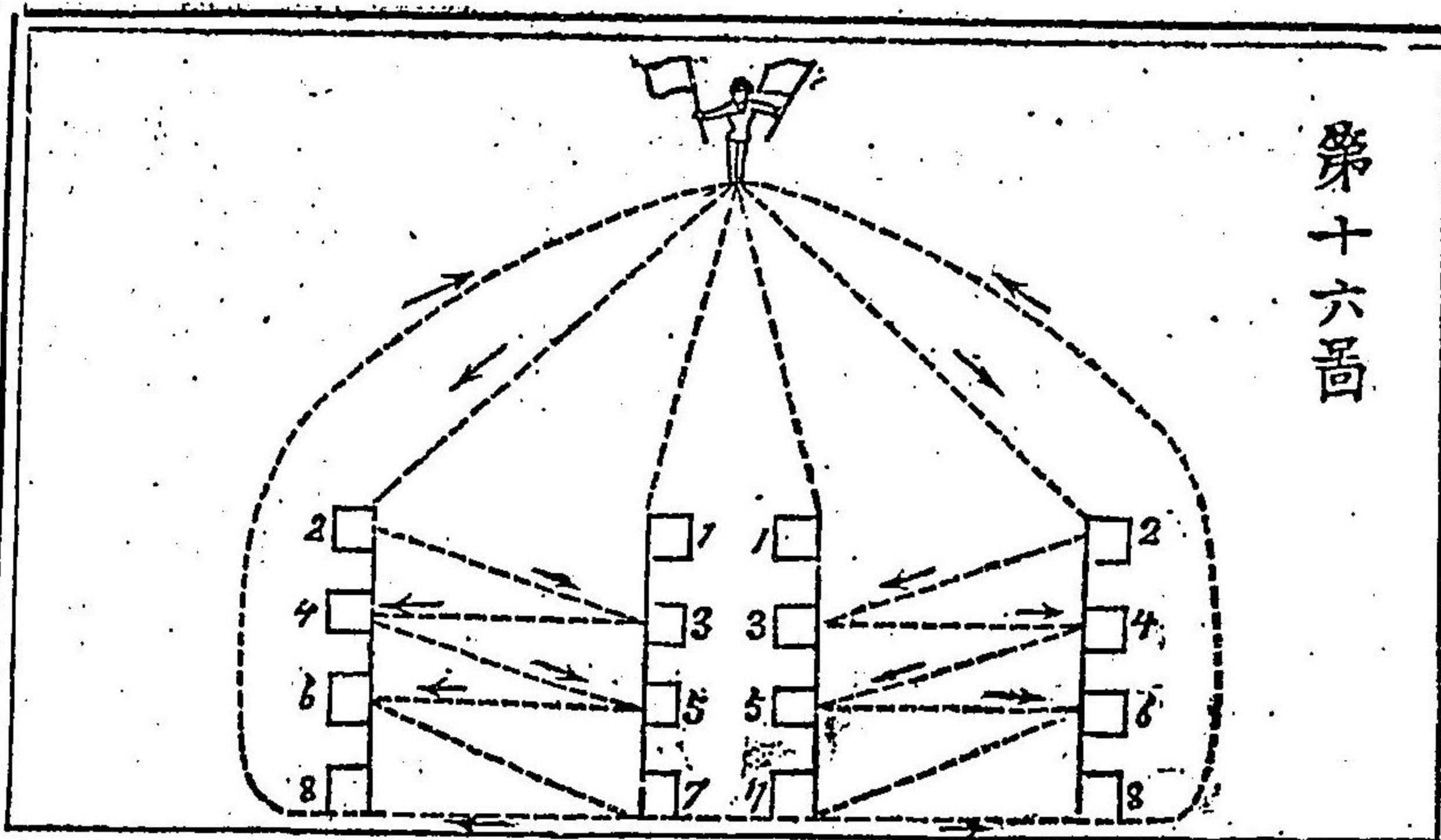
地上に一線を引き各色の異なりたる旗を四人なれば四本五人なれば五本を凡そ六七尺間に建て各人をして其旗の下に立たしめ別に各人の正前凡そ二十間程を隔て、三四間毎に各色の旗を建て置くべし指揮者は「用意」「進メ」の號令を掛け競走者は直に疾走して己の旗と同じ色の旗を一本取り元の旗下に還りて之を置き又疾走して同じ色の旗を取り毎回一本の旗を取りて第一に集め得たる者を勝とす

又障害をなさんが爲め第十五圖の如く地上より凡そ一尺或一尺五寸程の高さに繩を張り置

第十五圖



第十六圖



くも宜しとす

○旗戻競走

先づ組を二つに分ち第十六圖の如く兩組の間を一間程隔て組内の者は各七八間宛を隔て、並列すべし諸指揮者は二十間位を隔て、赤白二旗の旗を持ち「用意」「進メ」の號令を掛くべし兩組共に1の處に居る者と直に疾走して指揮者の處に至り各一旗を受取り直に2の處に居る者へ向て走り還り2の人に渡して其處に止まるべし2の人は直に3の人の向て疾走して渡し3の人の4の人は直に4の人の向て疾走して渡し終尾に受取りたる者は直に又指揮者へ向て疾走して

之を戻すべし而して指揮者は先に受取りたる旗を振擧げて勝を表すべし其組は他の組の渡す渡さるるに限らざる直に左の凱歌を擧ぐべし

軍歌

國の光りと立てし旗
益す光り輝やきて
危難もんつか解け去りて
泰平の日に戻るらん
其時汝ちつむものゝ
んさはし譽て諸人が
歌に唱へて悦びて
安樂限りあかるらん



第十七番

第十八番



第十九番

烈しき軍すみしとき
つよき嵐のやみしとき

○環投

直径三間程の環線を地上に引き中央に暎と棒を建て人数に應じて間をわけ其環線の上に立ち
徑七八寸の環數個を先づ第一番に者より中央の棒に投げはめ第二番第三番と順次に斯の如くして最も多くはめたる者を勝とす第十七圖の如し

○轉球

東西の二組に分ち中央二三十間間に二線を引き此線より前に出づる可からせ而して甲の組より

地上に旋回して球を投げれば乙組は我線内に入らざらしめんとし手を以て之を受け甲組に向ひ同じく地上に旋回して投返すべし第十八圖の如し

又足を以て蹴返す事あり此時は距離十間程を適當とす而して手を用ゆ可からざり又手を以てする時は足を用ゆ可からず共に受け留める能はざして我線内に入れられたる組を負けとす

○投球

地上十間位間に二線を引き而して投手受手の二組に分れ投手一球を投げ受手と先の少しく廣さ棒を以て之を受返すものとす投手は又此球を手



第廿一圖

にて受け又受手の組に向て投げ返すべし而して受け損じたる者は投手と受手へ受手と投手の組に移り終に一人になりたる組を負けとす第十九圖の如し

○環貫球

此遊も前の如く二線を引き中央に竹環を凡そ四尺位高さの竹竿に附て建て置き一方より此環を通して球を投げ一方にては之を受け留めて直に投返すものとす第二十圖の如し而して投損じ又は受損じたる者他組に移るべし終に一人にありたる組を負とす

又第二十一圖の如く竹片に両端を環形に地上へ



第二十圖

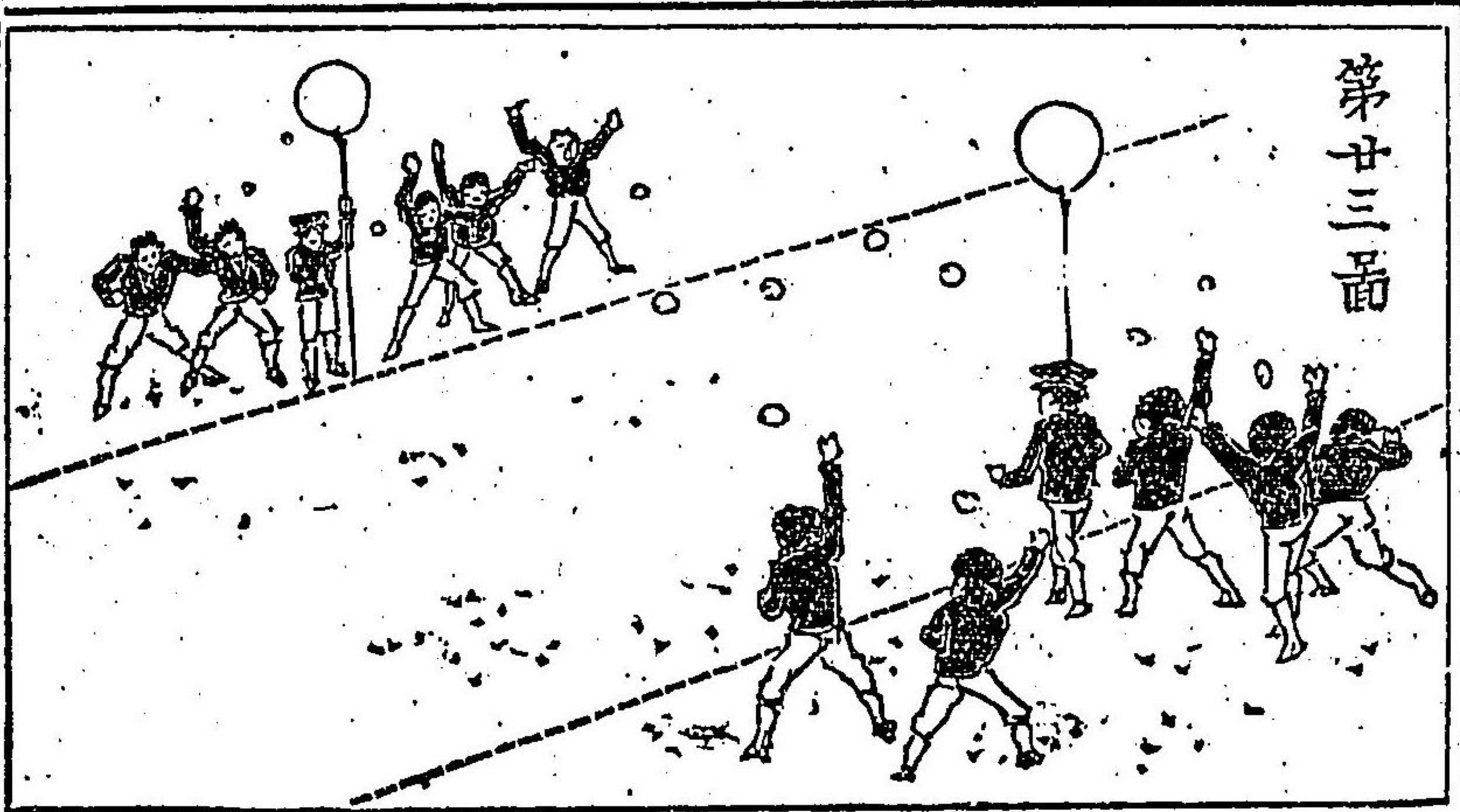
さし先の少し廣き棒を以て投ぐるもあり

○蹴鞠

地上七八間間に二線を引き之を兩組の境界とし
 第二十二圖の如く線の終りに旗を立て城門とす
 兩組我線の前に列し直徑七八寸の球を靴にて蹴
 り一方の境内に入れんとし一方は入れざらんと
 し靴を以て之を蹴返すべし受損じて我界内に入
 れられたる組又と誤つて我境内に蹴入れたる組
 を負とす

○戰爭遊

此遊をなすには先づ用意し置くべきもの左の如
 し



第廿三圖

球 數十個
 旗 二本

此旗は直徑二尺程の竹環に紙を張り一と赤
 一は白に染めたるものなり

地上十間間に二線を引き其線以内を戰爭場と定
 め別に一町程隔たりたる處に本營を設け楮三四
 十人の仲間を二隊に分ち球を二分して兩組各
 本營に還り年長の者を大將に撰び皆球四五個づ
 を携へて一隊に並び大將は其中央に旗を持ち
 て並び別に先鋒一人を撰びて郷導とあし或之喇
 叭を吹き或之大鼓を叩き皆一齊に軍歌を唱へ戰
 争場に向ひて進軍すべし已に割線に達したると



第廿二圖

きは皆一列に並び是より前に進むことを得ず此に於て兩軍の兵士は皆携へたる
 球を投げ大將の旗を目掛けて投げるべし旗を破られたる隊を負とす兩隊の郷導
 は初より線内に出で、其勝敗を見勝ちたる隊の郷導は直に喇叭を吹くべし球を
 兩軍共に之を拾ひ負けたる隊は勝ちたる隊の後に隨ひ再び隊をなして勝ちたる
 隊の本營に歸るべし第二十三圖の如し

軍歌

彈丸は霰と空に飛び
 いかづち擬ふ砲聲に
 わが魂の緒も打絶ん
 すゝむに猛き武士は
 屍は野邊に晒すとも
 さくらと匂ふ九段坂

つるぎは野邊の電か
 吹き來るかぜも腥く
 今期の時ぞ勇壯しく
 颯々こととさきものを
 名は后代に醜郁しく
 空にそびゆる靖國の

祭り納めにし諸靈は
 寇すす戎夷盡るまで
 などか厭とん敷島の
 堅固に堅硬き金剛の
 人みなあべて羨慕す
 故郷人に品格九かく

是大丈夫の龜鑑ぞや
 よしや火の中水の底
 倭だましひ飽までも
 石より光り輝やくと
 青白なせる桐の記章
 錦繡を飾る心氣よき

遊戯法 畢

◎兒童遊戯法附録

◎遊戯和英語纂

九	八	七	六	五	四	三	二	一
ナイン	エイト	セブン	シックス	フワイブ	フホーア	スリー	ツー	ワン
左	北	南	西	東		十二	十一	十
レフト	ノース	サウス	ウエスト	イースト		ツヴェルブ	エレブン	デーン
木曜	水曜	火曜	月曜	日曜		後	前	右
サーズデー	ウエンスデー	チューズデー	ムンデー	サンデー		バック	フロント	ライト

金曜	土曜	男兒	女兒	幼兒	両親	父	母	子息	娘	朋友
フライデー	サターデー	ボーイ	ガール	チャイルド	パレレント	フワーザー	マーザー	ソン	ドーター	フレンド
手	足	指	爪	顔	頭	耳	目	鼻	口	
ハンド	フート	フィンガー	ネイル	フェイス	ヘッド	イーア	アイズ	ノーズ	マウス	
色	赤	白	黄	青	黒	上衣	外套	高帽	帽子	手拭
カラー	レッド	ホワイト	エムロー	ブルー	ブラック	コート	フロック	ハット	キャップ	ハンドカチーフ

袖	スリーブ	環	フープ	家	ハウス
懐	ポケット	喇叭	ホーン	橋	ブリッジ
手袋	グローブ	大鼓	ツラム	草	グラス
靴	シューズ	笛	フリュイト	木	ウーツ
足袋	ソック	軍旗	カラー	石	ストーン
頸巻	クラベット	學校	スクール	水	ウォーター
長靴	ブーツ	遊園	パーク	村	ビルレージ
懐時計	ウォッチ	森	ウード	町	シチー
彈丸	ボール	山	マウンテン	戰場	バトルフィールド
棒	スティック	海	シー	砦	フォートレス
手毬	ハンドボール	川	リバー	城	カッスル
				柵	パリセード

園	ガーデン	傳令官	シッドルシッパマン	真中	ミッドル
兵營	バトリック	遊ビ	プレー	行ク	ゴー
軍勢	アーミー	勞レ	タイア	歸ル	ゴーパーク
大將	ゼ子ラル	力	フホアース	來ル	カム
歩兵	インフハントリー	靜カ	サイレント	急	クキック
兵士	ツラゴーン	戰爭	バトル	急	ヘースト
騎兵	カウワルリー	勝利	ビクトリー	早ク	アーリー
馬	ホース	敗軍	デフビート	走ル	ラーン
勇士	ウキック	列	ランク	離レ	チャッド
旗手	インサイン	線	ライン	引返ス	ツローバック
守兵	ガーリゾン	塲所	プレー	投ゲル	スローン
				氣ヲ附ケ	テータケア

進ム	マーチ	星	スター	大陸	コンチネント
戦フ	ファイト	空	スカイ	大洋	オシヤン
降参ス	イニールド	雲	クロード	國	カンツリト
突入ル	プッシュユ	雨	レイン	島	アイランド
出逢フ	メツド	風	ウインド	湖	レイキ
線ヲ超ユチーバーライン		雪	スノー	池	ポンド
止マル	ストップ	氷	アイス	春	スプリング
		霜	フロスト	夏	サンマー
		露	デュー	秋	ナイタム
		電	ライチング	冬	ウインタ
		雷	サンダー	○附録尾	
		地震	アースクエイク		

天 地 版 權 登 録

月 日
ムン サン

明治廿一年八月四日印刷
同 廿一年八月五日出版

○ ○ ○ ○ ○
定 價 金 八 錢
○ ○ ○ ○ ○

印刷兼
發行者

大 庭 和 助

大阪府東區備後町四丁目八十一番屋敷

著 作 者

東 條 種 家

大阪府東區石町三丁目拾五番地寄留

賣 捌 所

吉 岡 平 助

大阪府東區備後町四丁目七十八番屋敷

同

船 井 政 太 郎

兵庫縣神戸區元町五丁目廿六番屋敷

●陸軍中尉大庭君題辭

●佐藤雄治先生編纂

●偶評 明治新體詩歌選

中本全一冊石版書挿入
紙數貳百三拾ページ
正價拾錢●郵稅拾貳錢

本書は當時人の専ら頌謠欣和する玉句錦童の新體詩歌夥多を蒐輯し之れに美麗なる石版畫を挿入したる珍書なり

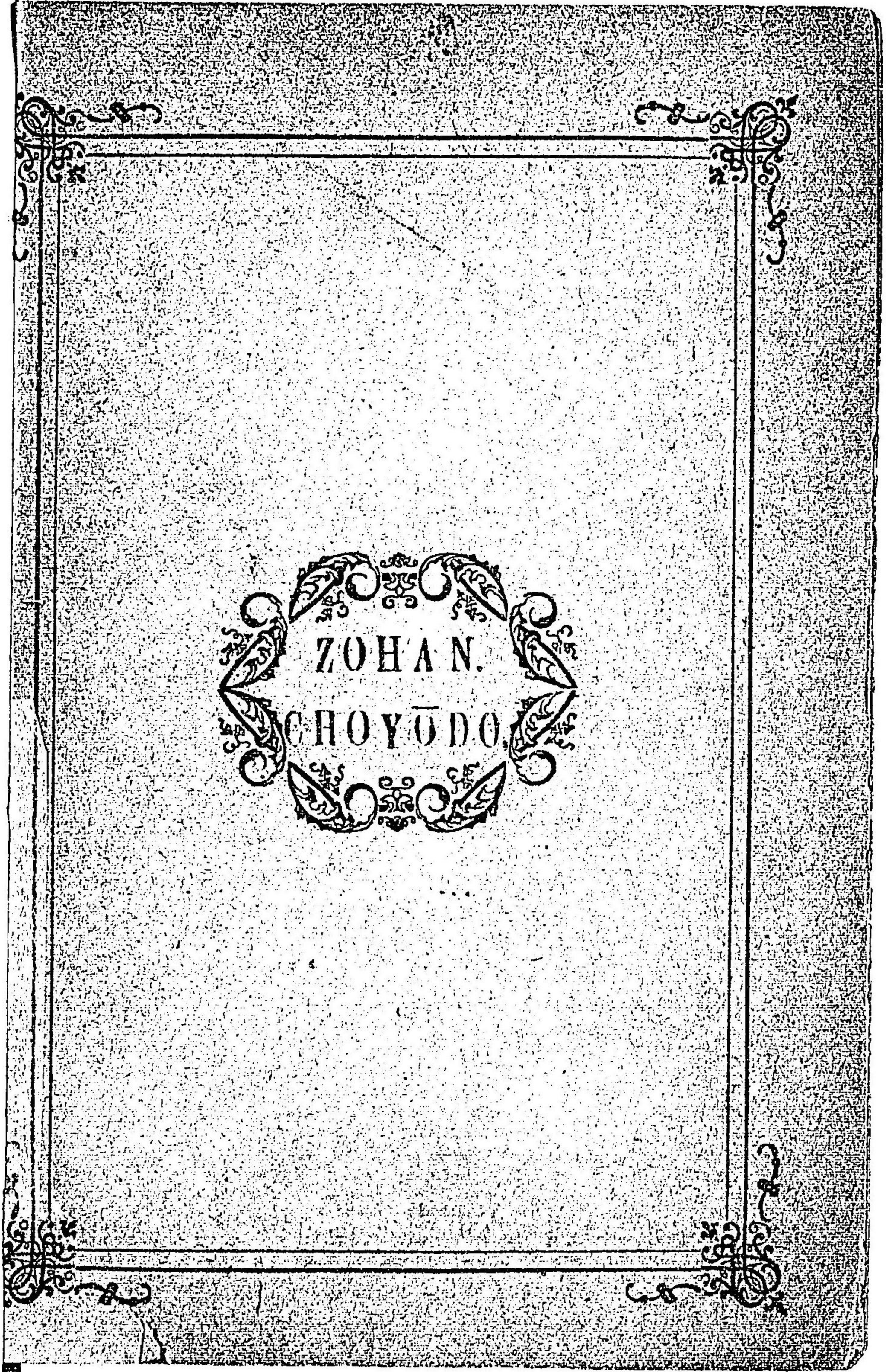
●岡本經朝先生譯述

●羅馬字軍歌

小本全壹冊
正價金四錢

此書は羅馬字と和文とを以て今様の軍歌を纂輯せられし書なり

發兌書肆 朝陽堂謹告



ZOHAN.
CHOYODO



075287-000-6

特53-890

兒童體育遊戲法

東条 種家/編

M21

CEM-0205

